

全国介護老人保健施設大会 愛媛in松山

7月26日～28日にかけて、ひめぎんホール（県民文化会館）を中心とした各会場で、全老健の大会が開催されました。なんぐん館からも、演題の発表者や運営スタッフとして多くの職員が参加しました。

この大会で発表した、なんぐん館での取り組みを報告したいと思います。



演題発表

『見つけた、自分の居場所』

デイケア 二宮友貴

私が担当しているデイケアの利用者様の利用開始から現在までの6年間をまとめたものです。五十代の若さで脳梗塞を発症され、ご本人はもとよりご家族の不安や戸惑いは大変なものだったと思います。利用当初はデイケアで過ごす時間、他の利用者、職員に馴染めずにいたこと、家業の心配など、その利用者様が抱えているものに対しどのように職員が関わってきたか。私自身が支援に悩んだこと。そしてご本人がどうやって、生き甲斐や自分の居場所を見つけてきたのかを発表しました。

ご本人の意欲とご家族の協力や支えがあったからこそ、私たちの支援が活かされ、現在の生活が継続できている。人と人との関わりがとて大切な仕事だと、事例発表をすることで改めて思います。利用者様がデイケアで有意義に過ごしていただけのように他職種が協働し、今後も温かいケアを提供していきたいと思えます。

『入社2年目のターミナルケア』

1階介護 池田 貴紀

当館で終末期の方の入浴を初めて実施したという内容です。利用者様やそのご家族の『熱い風呂に入りたくない体でお見送りたい』という強い希望と、職員の『きれいな体でお見送りたい』という思いが一つになりました。ご本人の好きだったお風呂に入ることで、残された時間をどう過ごしていただくか、ご本人、ご家族が何を望んでいるのかを考える貴重な経験をさせていただきました。

大勢の方の前で発表する機会が普段あまりないため緊張しましたが、とてもいい勉強になりました。

『細かいケアの統一でガッチリ在宅復帰』

2階介護 坂本 啓子

私が担当した利用者様の在宅復帰への取り組みについて、発表しました。

施設で訓練したことが在宅で継続できる為には、何が必要なのか。より細かくケア内容を見直すことで、職員間の意識統一、実施するケアの統一が図れ、何を支援すべきかがはっきりと見えてきました。二回の在宅復帰目的入所で、利用者様は現在もご自宅で一人で自由に生活されています。このように訓練の効果が上がったことを紹介しました。

他施設でも、他職種との連携、職員間での意識、ケアの統一、利用者様やご家族との関わり方等、様々な問題に取り組みしていました。他施設の事例も聴くことができ、貴重な体験をさせていただきました。

系内涼祭

8月5日（土）第19回なんぐん館納涼祭を行いました。今回は、台風5号の影響で急遽、館内での開催となりましたが、フラダンス、マンドリンクラブの皆さんの協力のもと、華やかなダンスや、マンドリンのさわやかな音色と共に楽しませて頂きました。

悪天候の中にも関わらず、たくさんのご来場ありがとうございました。



デイケア ミニ納涼祭

デイケアでも、毎年恒例の納涼祭を行いました。今年も、豪華な昼食やお酒もふるまわれ、皆さんお腹いっぱい召し上がっていました。ゲームコーナーでも、射的や風船割等で盛り上がっていました。

